

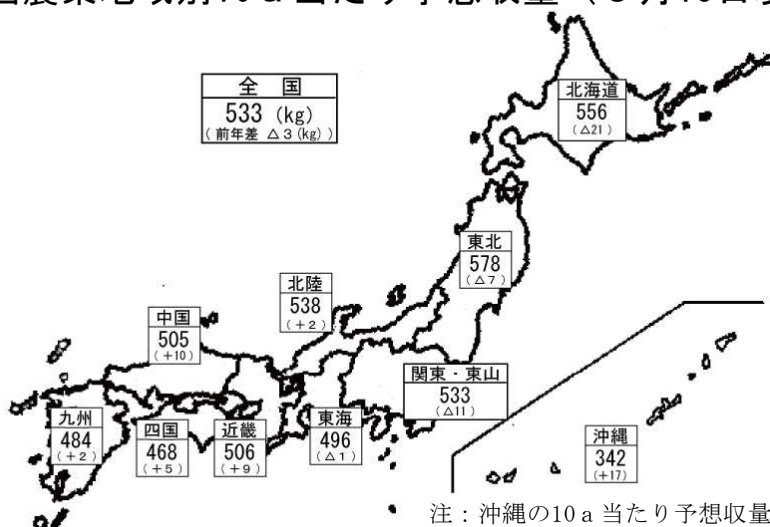
平成27年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

- － 主食用作付見込面積は140万6,000ha（前年産に比べ6万8,000ha減少）の見込み
－ 10a当たり予想収量は平年並みの533kg（前年産に比べ3kg減少）の見込み －

【調査結果の概要】

- 平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は162万3,000haとなり、前年産に比べ1万6,000haの減少が見込まれる。うち主食用作付見込面積は140万6,000haとなり、前年産に比べ6万8,000haの減少が見込まれる。
- 9月15日現在における水稻の作柄は、北海道から近畿では、登熟は一部の地域を除き8月中旬以降の日照不足等の影響により平年を下回っているものの、全もみ数が総じて平年並みないしやや多いとなっていることから、おおむね平年並み以上と見込まれる（10a当たり予想収量は、北海道、東北及び関東・東山では作柄が良かった前年産に比べ減少）。
一方、中国、四国及び九州では、6月以降の低温・日照不足等の影響により、全もみ数及び登熟が総じて平年を下回っていると見込まれる（10a当たり予想収量は、中国、四国及び九州では作柄が悪かった前年産に比べ増加）。
このため、全国の10a当たり予想収量は平年並みの533kgとなり、前年産に比べ3kgの減少が見込まれる。
- 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は746万7,000tで、前年産に比べ41万5,000tの減少が見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（9月15日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成27年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は4ページを参照。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。なお、台風第15号、台風第18号及び平成27年9月関東・東北豪雨による影響は、現段階で把握できる被害について見込んでいる。

◎ 水稲調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎ 累年データ

水稲の年次別推移（全国）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む。)		10a当たり 収 量	収 穫 量 (子 実 用)	参 考	
	子 実 用	主 食 用 作付面積			収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t
平成元年産	2,093,000	2,076,000	496	10,297,000
2	2,071,000	2,055,000	509	10,463,000
3	2,046,000	2,033,000	470	9,565,000
4	2,099,000	2,092,000	504	10,546,000
5	2,131,000	2,127,000	367	7,811,000
6	2,201,000	2,200,000	544	11,961,000
7	2,110,000	2,106,000	509	10,724,000
8	1,980,000	1,967,000	525	10,328,000
9	1,950,000	1,944,000	515	10,004,000
10	1,800,000	1,793,000	499	8,939,000
11	1,786,000	1,780,000	515	9,159,000
12	1,768,000	1,763,000	537	9,472,000
13	1,711,000	1,700,000	532	9,048,000
14	1,693,000	1,683,000	527	8,876,000
15	1,670,000	1,660,000	469	7,779,000
16	1,704,000	1,697,000	514	8,721,000
17	1,709,000	1,702,000	532	9,062,000
18	1,692,000	1,684,000	507	8,546,000
19	1,678,000	1,669,000	522	8,705,000
20	1,637,000	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000
21	1,637,000	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000
22	1,657,000	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000
23	1,632,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000
24	1,641,000	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000
25	1,647,000	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000
26	1,639,000	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000
27(見込み)	1,623,000	..	533	..	1,406,000	7,467,000

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 10a当たり（予想）収量及び（予想）収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

3 主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成27年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である（以下同じ。）。

4 「..」は、未発表であることを示している。

【調査結果】

1 平成27年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は162万3,000haで、前年産に比べ1万6,000haの減少が見込まれる。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は140万6,000haで、前年産に比べ6万8,000haの減少が見込まれる。

2 9月15日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、北海道及び東北では、一時低温の時期はあったものの、生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は北海道を除いて平年を上回り、登熟もおおむね順調に推移していることから、北海道はやや良の556kg（作柄が良かった前年産に比べ21kg減少）、東北はやや良の578kg（同7kg減少）が見込まれる。

関東から近畿では、8月中旬までは高温・多照傾向で推移したことから、全もみ数は平年並みないしやや多くなったものの、登熟は8月中旬以降の低温・日照不足や台風等による影響がみられることから、北陸は平年並みの538kg（前年産に比べ2kg増加）、関東・東山は平年並みの533kg（同11kg減少）、東海は平年並みの496kg（同1kg減少）、近畿は平年並みの506kg（同9kg増加）が見込まれる。

中国、四国及び九州は、6月以降の断続的な低温・日照不足や台風等の影響により、全もみ数が平年並みないし少なく、登熟も平年を下回って推移しているため、中国はやや不良の505kg（作柄が悪かった前年産に比べ10kg増加）、四国はやや不良の468kg（同5kg増加）、九州はやや不良の484kg（同2kg増加）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は平年並みの533kg（前年産に比べ3kg減少）が見込まれる。

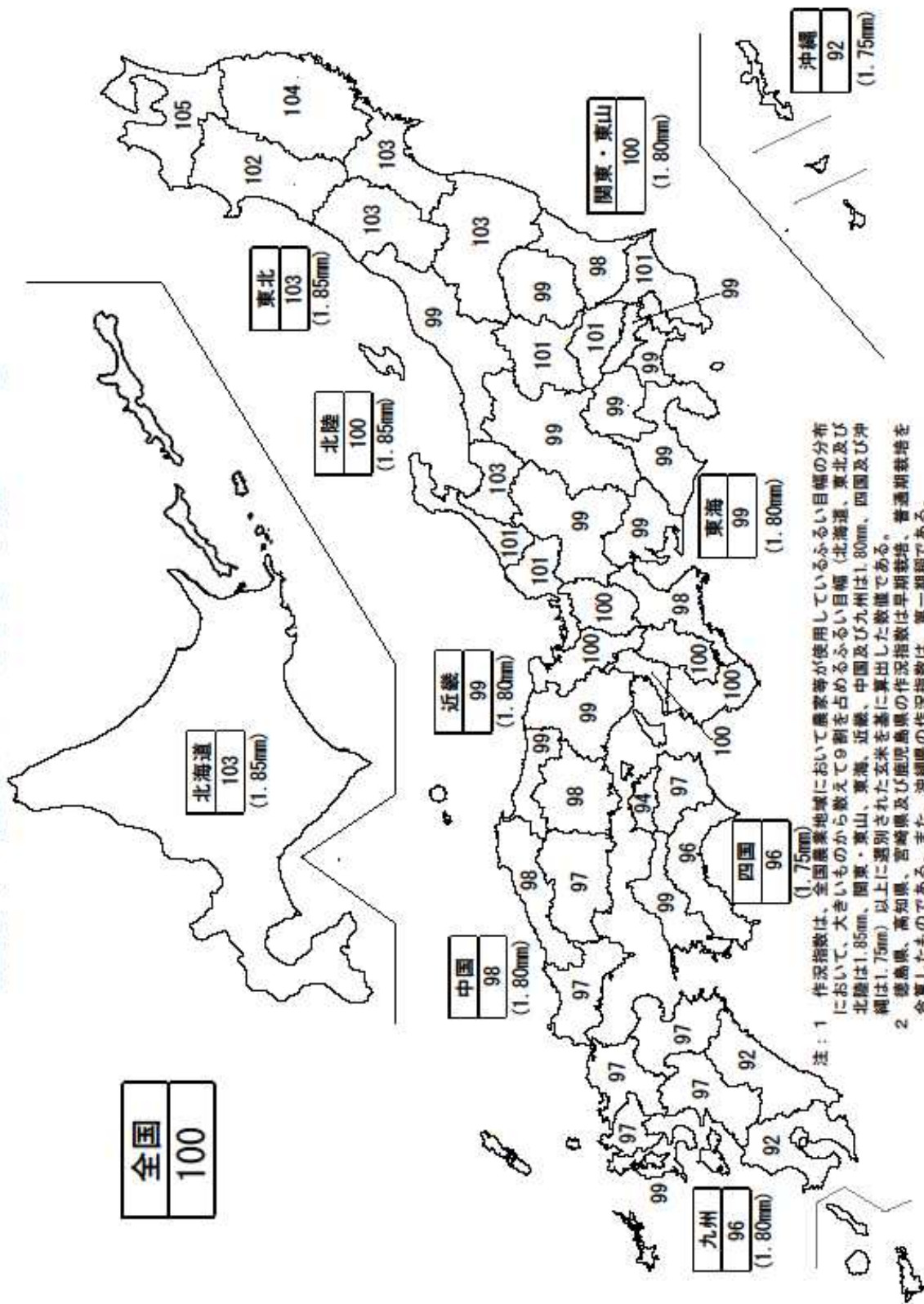
3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は746万7,000t（前年産に比べ41万5,000t減少）が見込まれる。

表 平成27年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量
（全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり予想収量			参 考	
	実数	前年産との比較		実数 ①	前年産との比較 対 差	主食用作付 見込面積 ②	予想収穫量 （主食用） ③=①×②	
		対 差	対 比					ha
	ha	ha	%	kg	kg	ha	t	
全 国	1,623,000	△ 16,000	99	533	△ 3	1,406,000	7,467,000	
北 海 道	110,500	△ 1,600	99	556	△ 21	100,100	556,600	
東 北	415,200	△ 4,000	99	578	△ 7	339,500	1,957,000	
北 陸	214,100	△ 1,400	99	538	2	184,100	991,500	
関 東・東 山	304,300	△ 1,000	100	533	△ 11	264,200	1,408,000	
東 海	102,700	△ 1,200	99	496	△ 1	93,100	461,700	
近 畿	107,900	△ 1,600	99	506	9	101,900	516,300	
中 国	114,500	△ 1,800	98	505	10	104,100	526,100	
四 国	55,200	△ 1,300	98	468	5	51,700	242,200	
九 州	198,000	△ 2,000	99	484	2	166,300	805,300	
沖 縄	826	△ 38	96	…	…	826	2,550	

注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
3 沖縄県の10a当たり予想収量は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、予想収穫量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（9月15日現在）
 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



【統計表】

統計表一覧

ページ

- 1 平成27年産水稻の作付面積、10a 当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 6
- 2 平成27年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）
・・・・・・・・・・ 8

利用上の注意

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- 2 表中に用いた記号は以下のとおりである。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」：負数又は減少したもの

1 平成27年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

全 国 ・ 都道府県	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数	前年産との比較			10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③
		対 差	対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,623,000	△ 16,000	99	533	517	517	100
北 海 道 (2)	110,500	△ 1,600	99	556	536	522	103
青 森 (3)	51,400	△ 500	99	615	595	566	105
岩 手 (4)	57,000	△ 1,000	98	554	539	518	104
宮 城 (5)	73,700	△ 1,100	99	545	530	516	103
秋 田 (6)	92,900	△ 1,100	99	585	564	553	102
山 形 (7)	69,900	△ 800	99	614	598	578	103
福 島 (8)	70,300	500	101	558	540	526	103
茨 城 (9)	77,900	200	100	514	505	515	98
栃 木 (10)	69,100	100	100	535	523	528	99
群 馬 (11)	18,100	△ 300	98	503	483	479	101
埼 玉 (12)	35,100	△ 400	99	494	481	476	101
千 葉 (13)	61,900	△ 100	100	539	530	525	101
東 京 (14)	156	△ 3	98	409	396	402	99
神 奈 川 (15)	3,150	0	100	492	473	478	99
新 潟 (16)	121,300	△ 400	100	538	519	523	99
富 山 (17)	39,500	△ 700	98	561	542	524	103
石 川 (18)	26,700	△ 300	99	522	510	504	101
福 井 (19)	26,400	△ 200	99	525	504	500	101
山 梨 (20)	5,050	△ 50	99	545	530	533	99
長 野 (21)	33,800	△ 500	99	613	600	609	99
岐 阜 (22)	25,200	△ 100	100	481	471	478	99
静 岡 (23)	17,500	△ 100	99	515	507	513	99
愛 知 (24)	30,000	△ 500	98	503	495	499	99
三 重 (25)	29,900	△ 500	98	490	479	488	98
滋 賀 (26)	33,200	△ 400	99	519	505	506	100
京 都 (27)	15,200	△ 200	99	510	500	501	100
大 阪 (28)	5,450	△ 100	98	497	478	479	100
兵 庫 (29)	38,200	△ 400	99	497	484	491	99
奈 良 (30)	8,980	△ 150	98	515	500	499	100
和 歌 山 (31)	6,900	△ 330	95	494	484	484	100
鳥 取 (32)	14,300	△ 200	99	512	501	504	99
島 根 (33)	19,500	△ 200	99	502	492	500	98
岡 山 (34)	32,600	△ 700	98	514	505	515	98
広 島 (35)	25,500	△ 500	98	510	500	513	97
山 口 (36)	22,400	△ 400	98	489	478	493	97
徳 島 (37)	13,100	△ 400	97	458	453	469	97
早期栽培 (38)	5,130	△ 180	97	450	447	459	97
普通栽培 (39)	7,970	△ 240	97	463	457	475	96
香 川 (40)	14,000	△ 500	97	473	464	493	94
愛 媛 (41)	15,000	△ 200	99	493	488	493	99
高 知 (42)	13,100	△ 200	98	443	439	456	96
早期栽培 (43)	7,560	△ 200	97	462	459	478	96
普通栽培 (44)	5,580	60	101	419	414	426	97
福 岡 (45)	39,400	△ 400	99	482	465	481	97
佐 賀 (46)	26,700	0	100	503	488	502	97
長 崎 (47)	13,500	△ 400	97	472	456	462	99
熊 本 (48)	44,000	△ 400	99	502	484	499	97
大 分 (49)	25,500	△ 200	99	491	465	481	97
宮 崎 (50)	23,600	△ 300	99	458	443	484	92
早期栽培 (51)	9,100	△ 110	99	411	399	471	85
普通栽培 (52)	14,500	△ 200	99	490	473	493	96
鹿 児 島 (53)	25,400	△ 200	99	455	433	470	92
早期栽培 (54)	6,680	20	100	396	383	435	88
普通栽培 (55)	18,700	△ 200	99	472	448	481	93
沖 縄 (56)	826	△ 38	96	305	...
第一期稲 (57)	556	△ 34	94	342	341	369	92
第二期稲 (58)	270	△ 6	98

注：1 ①10a当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された②10a当たり予想収量、③10a当たり平年収量及び④作況指数については、全国農業地域において農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
3 沖縄県平均の10a当たり予想収量並びに（参考）の農家等が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり予想収量及び作況指数は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、沖縄県計の予想収穫量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

参 考		平 年 比 較				
主食用作付見込面積	予想収穫量（主食用）	穂数の多少	1 穂 当 た り の 多 少	全 も み 数 少	登熟の良否	
⑤	⑥=①×⑤					
ha	t					
1,406,000	7,467,000	…	…	…	…	(1)
100,100	556,600	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良	(2)
37,300	229,400	多 い	少 ない	平年並み	やや良	(3)
48,100	266,500	多 い	少 ない	平年並み	やや良	(4)
63,700	347,200	多 い	平年並み	やや多い	やや不良	(5)
71,200	416,500	多 い	少 ない	平年並み	やや良	(6)
57,700	354,300	多 い	少 ない	やや多い	平年並み	(7)
61,500	343,200	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(8)
68,400	351,600	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良	(9)
54,100	289,400	やや多い	やや少ない	やや多い	やや不良	(10)
14,400	72,400	やや多い	やや多い	やや多い	やや不良	(11)
31,700	156,600	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(12)
55,200	297,500	平年並み	やや多い	やや多い	やや不良	(13)
156	638	やや少ない	やや少ない	やや少ない	平年並み	(14)
3,130	15,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(15)
102,400	550,900	多 い	少 ない	平年並み	やや不良	(16)
34,200	191,900	多 い	やや少ない	やや多い	やや不良	(17)
23,600	123,200	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(18)
23,900	125,500	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良	(19)
4,980	27,100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(20)
32,200	197,400	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(21)
22,100	106,300	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(22)
16,100	82,900	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み	(23)
27,200	136,800	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(24)
27,700	135,700	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(25)
30,600	158,800	やや多い	平年並み	平年並み	平年並み	(26)
14,400	73,400	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(27)
5,440	27,000	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(28)
35,700	177,400	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(29)
8,850	45,600	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(30)
6,900	34,100	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み	(31)
12,400	63,500	やや多い	やや少ない	平年並み	平年並み	(32)
17,500	87,900	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(33)
29,600	152,100	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	(34)
24,000	122,400	やや多い	やや少ない	やや少ない	平年並み	(35)
20,500	100,200	やや多い	やや少ない	平年並み	やや不良	(36)
11,700	53,600	…	…	…	…	(37)
…	…	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	(38)
…	…	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み	(39)
13,500	63,900	平年並み	平年並み	やや少ない	やや不良	(40)
14,600	72,000	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	(41)
11,900	52,700	…	…	…	…	(42)
…	…	平年並み	平年並み	平年並み	やや不良	(43)
…	…	やや少ない	多 い	多 い	不 良	(44)
35,900	173,000	少 ない	やや多い	やや少ない	平年並み	(45)
25,000	125,800	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良	(46)
12,500	59,000	少 ない	多 い	平年並み	やや不良	(47)
34,300	172,200	少 ない	多 い	平年並み	やや不良	(48)
21,700	106,500	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや不良	(49)
16,100	73,700	…	…	…	…	(50)
…	…	少 ない	やや少ない	少 ない	不 良	(51)
…	…	少 ない	多 い	平年並み	やや不良	(52)
20,900	95,100	…	…	…	…	(53)
…	…	少 ない	平年並み	少 ない	不 良	(54)
…	…	少 ない	多 い	やや少ない	やや不良	(55)
826	2,550	…	…	…	…	(56)
…	…	少 ない	やや少ない	少 ない	やや不良	(57)
…	…	…	…	…	…	(58)

- 4 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積（平成27年9月15日現在）を除いた面積（見込み）である。
- 5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。
- 6 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 平成27年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都道府県	出穂期						刈取済面積割合
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較			
				対平年差	対前年差		
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	%	
北海道	7. 27	8. 2	8. 7	4日遅	7日遅	1	
青森	7. 31	8. 3	8. 7	2日早	並み	0	
岩手	7. 29	8. 2	8. 8	4日早	1日早	3	
宮城	7. 26	7. 29	8. 7	7日早	4日早	1	
秋田	7. 30	8. 2	8. 9	2日早	並み	0	
山形	7. 31	8. 3	8. 11	3日早	1日早	1	
福島	7. 31	8. 7	8. 14	3日早	1日早	0	
茨城	7. 17	7. 27	8. 10	6日早	2日早	55	
栃木	7. 22	7. 29	8. 16	6日早	3日早	17	
群馬	8. 5	8. 18	8. 30	2日早	2日早	3	
埼玉	7. 23	8. 10	8. 30	2日早	1日早	27	
千葉	7. 9	7. 20	8. 1	6日早	2日早	94	
東京	8. 9	8. 14	8. 30	2日早	並み	1	
神奈川	8. 3	8. 10	8. 17	2日早	並み	14	
新潟	7. 25	8. 5	8. 13	2日早	1日早	29	
富山	7. 20	8. 2	8. 11	1日早	並み	35	
石川	7. 17	7. 29	8. 7	3日早	1日早	57	
福井	7. 15	8. 1	8. 12	2日早	並み	69	
山梨	8. 1	8. 8	8. 29	3日早	2日早	4	
長野	7. 30	8. 7	8. 14	1日早	1日遅	4	
岐阜	7. 20	8. 20	9. 4	並み	並み	24	
静岡	7. 18	8. 7	8. 31	4日早	2日早	38	
愛知	7. 23	8. 18	9. 4	並み	並み	27	
三重	7. 16	7. 23	8. 11	3日早	3日早	83	
滋賀	7. 25	8. 2	8. 16	1日早	並み	47	
京都	7. 25	8. 4	8. 21	1日早	1日早	34	
大阪	8. 1	8. 25	8. 31	2日遅	並み	4	
兵庫	7. 30	8. 13	8. 30	並み	並み	27	
奈良	8. 2	8. 26	9. 1	3日遅	2日遅	8	
和歌山	7. 18	8. 7	8. 22	1日早	並み	42	
鳥取	7. 27	8. 7	8. 21	並み	1日遅	4	
島根	7. 20	8. 3	8. 23	1日早	並み	33	
岡山	7. 31	8. 24	9. 9	5日遅	4日遅	17	
広島	7. 24	8. 9	8. 26	並み	並み	29	
山口	8. 3	8. 12	9. 2	3日遅	1日遅	20	
徳島	7. 6	7. 14	7. 25	4日早	3日早	100	
香川	7. 23	8. 24	9. 5	3日遅	2日遅	35	
愛媛	7. 18	8. 15	9. 5	1日遅	並み	36	
高知	6. 25	7. 1	7. 12	7日早	5日早	100	
福岡	8. 5	8. 25	9. 8	2日遅	1日遅	16	
佐賀	7. 24	8. 29	9. 13	1日遅	3日早	7	
長崎	7. 19	8. 29	9. 8	2日遅	1日早	14	
熊本	7. 17	8. 26	9. 9	4日遅	2日遅	9	
大分	7. 31	8. 29	9. 5	2日遅	並み	3	
宮崎	6. 17	6. 23	6. 30	6日早	6日早	100	
鹿児島	8. 22	8. 28	9. 7	3日遅	2日遅	0	
沖縄	6. 13	6. 27	7. 16	3日早	4日早	100	
第一期稲	8. 24	8. 30	9. 8	3日遅	3日遅	0	
第一期稲	5. 3	5. 19	6. 4	5日早	5日早	100	

注：出穂期の始期とは出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲作付面積調査及び水稲作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域名	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：39,369単位区 巡回・見積り：1,719市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆調査：10,248筆 作況基準筆調査：647筆 巡回・見積り：1,719市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員又は統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産からは、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

全国農業地域名	所 属 都 道 府 県 名	農家等使用目幅
北 海 道	北海道	1.85mm
東 北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	1.85mm
北 陸	新潟、富山、石川、福井	1.85mm
関 東・東 山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野	1.80mm
東 海	岐阜、静岡、愛知、三重	1.80mm
近 畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	1.80mm
中 国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	1.80mm
四 国	徳島、香川、愛媛、高知	1.75mm
九 州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	1.80mm
沖 縄	沖縄	1.75mm

- (8) 「10a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a 当たり収量をいう。

9 その他

(1) この資料のうち作付面積の数値は概数値である。

確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成28年2月予定）するとともに、その後刊行する「平成27年耕地及び作付面積統計」に掲載する。

なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

(2) 本調査における作柄概況（9月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

農林水産施策関係ページ：農林水産省＞組織・政策＞大臣官房の部局別トップへ
<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織・政策＞生産局の部局別トップへ
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

— お問合せ先 —

◎本統計調査結果について

・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

FAX： 03-5511-8771

・作柄概況に関すること

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

FAX： 03-5511-8771

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 広報普及班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037

FAX： 03-3501-9644